

障害者職業生活相談員の複数配置、助成金の活用により、運転職、事務職、業務職に障害者を雇用

奈良交通株式会社

企業
プロフィール

所在地	奈良県奈良市
自動車事業本部拠点数	本社・営業所：11
雇用障害者	肢体不自由者・内部障害者

大切なのはコミュニケーション 障害者に責任をもって仕事をしてもらうために

あらゆるチャンスをとらえ、 障害者雇用に取り組む

奈良交通株式会社は、現在12名の障害者が勤務しています。常時障害者のサポートを行う障害者職業生活相談員（※8ページ参照）を複数配置し、また助成金を使用してハード面の改修も行ってきました。

「私どもの会社は、一人でも多くの障害者に“社会に出て働く機会”や“活躍の場”を提供できるよう心がけています。助成金を活用して、社内にスロープを設置したり、トイレを車椅子対応のものに変えるなどを行いました。また、ハローワークの障害者の合同面接会には必ず参加しています。さらにこれとは別に、普段ハローワークに求職者がいた場合には、声をかけてもらうようお願いしています。もちろん、すべての障害者をお迎えすることはできませんが、多くの方にチャンスを与えられるなら、こんな素晴らしいことはないと思います」と、人事担当の中尾さん。「一方、少人数での効率的な業務運営という課題もありますので難しい面もありますが、今後も積極的に障害者雇用には取り組んでいくつもりです」



人事部
人事担当
中尾 毅さん

障害者雇用という社会的責任を果たすことは、奈良交通を支えてくださるお客様、つまり地元の方々への還元と考えているとのことでした。

安全面で問題がないことを確認のうえ 運転者としての復帰を許可

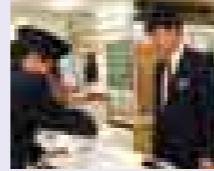


北大和営業所
課長
山本 敏和さん

12名の障害者の中に、入社後肢体不自由者となった小川さんがいます。入社以来運転者として勤務していた小川さんは、バイクの事故によって膝を曲げることができなくなりました。長い休職の後、運転者としての職場復帰を果たしました。「研修センターで乗務員教育を受けただけ、XYレコーダーも使った実際の運転で、問題がないかどうか確認させていただきました。お客さまに安全を提供できることが確認されたため、本人の希望どおり運転



出発前の確認(下)と安全運転を誓って出発する小川さん(左)



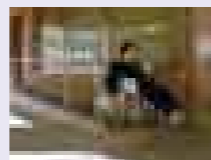
者として職場への復帰を許可しました。バスの運転者はずっと彼の夢だったようですから、その夢が途中で潰えることにならなくてよかったです」と北大和営業所の課長山本さんは言います。

健常者と同じ待遇ですが、体調面などで辛いことがあれば、いつでも相談にのるよう配慮しています。「大切な社員の一人ですから、がんばって長く勤めていただきたいものです」

車椅子を体験、障害者の立場に立って 設備をチェック トライアル雇用を活用して新規に雇用

以前に車椅子使用者を雇用していた経験がある奈良交通では、その当時、助成金を活用して障害者用トイレと入り口のスロープを整備しました。人事課長の山野さんは、実際に車椅子に乗ってみて、社内の設備を確認したと言います。「自分で車椅子に乗ってみると、思っていたよりも、社内の設備が不便であることがわかりました。具体的には、エレベーターのボタンの位置が高すぎる、通路が狭い。体験することで、障害者の方の立場に立って考えることができるようになりました」と山野さん。

その後新たに、体幹に障害があり、車椅子を使用している吉田さんを雇用しています。吉田さんは、ハローワークからの紹介で、トライアル雇用を利用し、会社と本



スロープでスムーズに

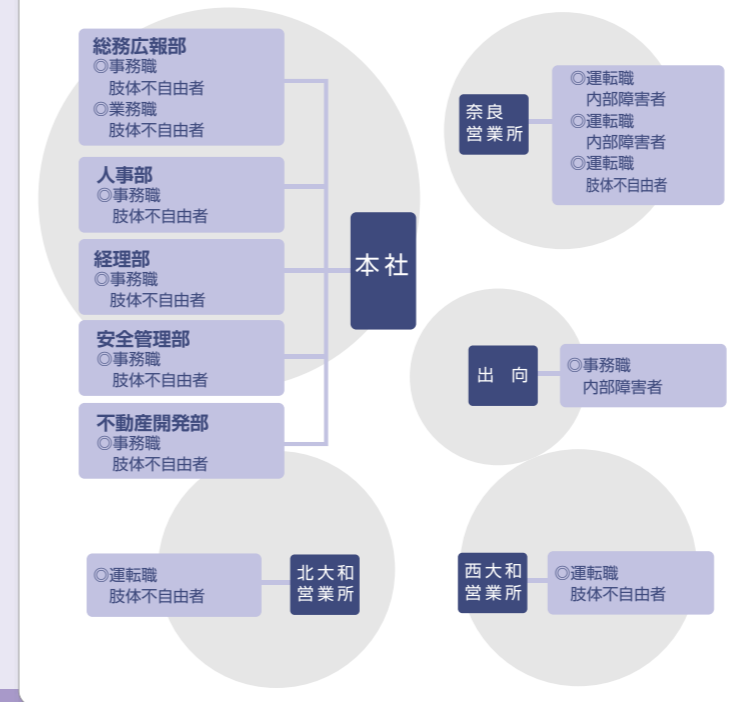


バリアフリーの職場で能力を発揮する吉田さん

人がともに適性を見極めたうえで、本採用に移行しました。「3ヵ月というトライアル雇用期間は、本採用を検討するうえでは十分な期間だと思います。吉田さんは、商業高校を主席で卒業したという経歴の持ち主です。とても熱心に、責任をもって仕事に取り組んでくれており、安心して仕事を任せています」

障害者職業生活相談員を複数配置し、いつでも相談にのることができる環境に加え、職場内においても普段からコミュニケーションや思いやりを大切にしていることが、職場定着の鍵となっています。

雇用されている障害者の配属先と障害状況



POINT ポイント

雇用への取組みを聞きました。 人間関係を大切にします

当社は「お客様第一」という社是のもと、安全・安心をモットーにバス事業を展開しています。運転技術の向上のために、研修センターを設け「人にやさしい運転」を指導しています。「やさしさ」は、障害者の雇用においても重要だと思



人事部(人事担当)
(兼)研修センター
課長
山野 豊さん

います。気軽に相談できる職場づくり、コミュニケーション、人間関係の充実に心を配っています。設備面でももう少し整備していかなければならないところもあると感じますが、障害者に限らず、社員が意欲と向上心をもってチャレンジしていけるように、ソフト面でのサポートはできる限り行いたいと思っています。障害者職業生活相談員の複数配置は、こうした考えにもとづくものです。

今後の障害者雇用においても、ご本人の安全を確保すると同時に、個々の能力が発揮できるような職場づくりを大切にしていきたいと思います。奈良交通の一員として、お客様の満足のためにチャレンジして下さる方が、この地元、奈良から入社されればなによりです。

VOICE 職場でのインタビュー

将来はボランティア をしていけたらいい なと思います

15年前に交通事故で肢体不自由者となりました。夢だったバスの運転者を諦めなくてはならないのかと思ったときは本当に不安でした。2年に渡って手術を繰り返し、ようやく社会に復帰。バスの運転者としてまだまだ働ける自信が

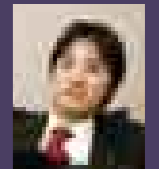


北大和営業所
運転者
小川 忠男さん
(肢体不自由)

あったので会社に希望を出し、研修センターなどで教育訓練を受け直しました。職場に復帰できるまでの2年は長く辛いものでしたが、復職できて本当に良かったと思っています。自分の体がきっかけというわけではありませんが、将来はボランティア活動をできたらいいなと思っています。

就職が決まったとき のうれしさは今も忘 れられません

車椅子での生活に、設備の充実が欠かせません。バリアフリーでないために、諦めた会社も多々ありました。奈良交通に就職でき、本当に嬉しく思います。仕事の内容は、バスのスケジュール管理表や名簿の作成などです。学



安全管理部
事務員
吉田 淳さん
(肢体不自由)

校ではパソコンの勉強をしていたので、その能力を活かせる仕事に就けたことはやがてにもつながっています。一つひとつの積み重ねを大切にしつつ、将来は同じようにパソコンを使った仕事をしていきたいです。社会参加に尽力してくれた母にも感謝しています。